

か、いつ頃できるのか、そこら辺り検討しながら、少しでも広がるような形で進めてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

よろしく願いいたします。

以上で、私の一般質問を終わりにしたいと思います。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、横山議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

関連質問なしと認めます。

行政側入替えのため、暫時休憩いたします。

再開を1時半といたします。

〈午後1時24分 休憩〉

〈午後1時30分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、田原洋子議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。〔7番 田原洋子君登壇〕

○7番（田原洋子君）

こんにちは。私は、田原洋子です。

皆さんは、マスクで声がこもって聞こえにくかったり、表情が隠れて、分からなくて不安になったことはありませんか。聞こえない人の中には、相手の口を見て、話の内容を分かる人がいます。今日は、マスクを取って話します。

それでは、通告書に基づき、1回目の質問をさせていただきます。

1、結婚支援について。

糸魚川市では、平成19年度から結婚を希望する独身男女の出会いや、結婚に係る相談をボランティアによる縁結びコーディネーターがサポートする「縁結びハッピーコーディネーター事業」と、男女の出会いの場になるイベントの開催に事業費の一部を補助する「ハッピー出会い創出事業」を行っています。平成30年度からは、新潟県婚活マッチングシステム「ハートマッチにいがた」の

入会費用の初回登録料（２年間１万１,０００円）の２分の１を補助しています。

また、出会いの場に参加しても話下手な男性が多いことから、話す練習、身だしなみチェック、プロフィールカードの書き方をアドバイスする男性セミナーや、独身の子供を持つ親に対してのセミナー、結婚に対する意識を向上させるための結婚応援フェア、縁結びコーディネーターによる結婚相談会、ハートマッチにいがたの説明会と、幅広い婚活支援を行っています。

さらに、婚活を前面に出さない自然な出会いを求める声が多くなっていることから、若者のUターン、仲間づくり、地域づくりのためのネットワーク構築を目的とした、その年に２５歳になる方で実行委員会を結成し、イベント等の企画運営をする「ふるさとリバイバル２５事業」、１８歳から３４歳までの多様な出会いと新たなつながりづくりを応援する「つながる若者応援事業」と、多方面から出会いを応援しています。

しかし、国立社会保障・人口問題研究所の人口統計資料集によると、新潟県の５０歳時の未婚率は男性２５.１５％、約４人に１人となっており、沖縄県、岩手県、東京都に次いで、全国４位の高さとなっています。

内閣府が未婚者に「結婚していない理由」を聞いたところ、①「適当な相手に巡り会わないから」②「自由や気楽さを失いたくないから」③「結婚後の生活資金が足りないと思うから」④「必要性を感じないから」⑤「結婚資金が足りないから」が上位を占めています。

また、結婚を希望している未婚者のための対策として重要だと思うのは、①「雇用対策を持って、安定した雇用機会を提供する」②「賃金を上げて、安定した家計を営めるよう支援する」③「夫婦が共に働き続けられるような職場環境の充実」④「結婚した方が有利となるような税制」⑤「結婚や住宅に対する資金貸与や補助を行う」が「出会いの場を提供する」を上回っています。

さらに未婚者に結婚意向を聞いたところ、４０代になると男性の３１.８％、女性４７.３％が「結婚するつもりがない」と回答する比率が高くなっています。

このことを踏まえ、以下の項目について伺います。

- (1) 糸魚川市縁結びコーディネーターは、何人いますか。
- (2) 縁結びコーディネート事業、ハッピー出会い創出事業、結婚相談所入会支援制度で、婚姻報告は何組ありますか。
- (3) ハートマッチにいがた上越サポートセンターの開設は月に２回ですが、開設日を増やすように新潟県に掛け合っていますか。
- (4) 上越市、妙高市と広域連携を取っていますか。
- (5) ふるさとリバイバル２５事業、つながる若者応援事業で、婚姻の事例はありますか。
- (6) 安定した雇用と賃金を上げる施策はありますか。
- (7) 結婚しても働き続けられる職場環境整備のため、企業へ働きかけはしていますか。
- (8) 新生活を応援する施策はありますか。
- (9) 結婚意向の高い２０代、３０代に対し、結婚、出産を含めたライフプランを考える機会がありますか。

## ２、不妊治療について。

日本産科婦人科学会によると、約１０組に１組が不妊症と言われています。晩婚化、妊娠希望年齢の高齢化により、不妊治療を受ける人は増加傾向にあり、夫婦の約６組に１組が不妊の検査や治

療を受けています。2019年に行われた体外受精で生まれた子供は、14人に1人となっています。

WHO（世界保健機関）のデータでは、不妊の原因は女性のみが52%、男性のみが24%、男女両方は24%と、約半数が男性に原因があるとされています。

不妊治療は、来年4月から公的医療保険の対象になりますが、不妊治療に実績がある遠方の専門機関に通院することから、経済的負担が大きくなっています。

また、厚生労働省は来春から不妊治療を行う夫婦に、里親・特別養子縁組の情報提供を強化します。

それらを踏まえ、以下の項目について伺います。

- (1) 糸魚川市の不妊治療の助成は、年間どのくらいありますか。
- (2) 糸魚川市のホームページに、不妊治療の分かりやすい説明がないのはなぜですか。
- (3) 不妊を疑った場合、検査などにかかった費用を助成する制度はありますか。
- (4) 不妊、不妊治療の悩みを相談する窓口や、不妊治療を受けている人同士が悩みを話せる場所はありますか。
- (5) 男性不妊や加齢が不妊の大きな要因であることから、家族や職場に対し、不妊治療への理解を深める啓発活動が必要と考えますが、いかがですか。
- (6) 里親・特別養子縁組の相談窓口はどこですか。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

田原洋子議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、現在、男性3人、女性3人の計6人となっております。

2点目につきましては、平成19年度から令和2年度の実績として、縁結びコーディネート事業が29組、結婚相談所入会支援制度が1組であります。

3点目につきましては、上越市での開催が減っていることから、当市での開催ができるよう働きかけており、令和元年度と2年度で、年1回ずつ実施いたしております。

4点目につきましては、連携はいたしておりません。

5点目につきましては、把握いたしておりません。

6点目につきましては、資格取得や雇用増加への助成を行っているほか、新規設備投資や労働生産性向上の取組を支援いたしております。

7点目につきましては、ワーク・ライフ・バランスの推進を啓発いたしております。

8点目につきましては、実施いたしておりません。

9点目につきましては、出会いやつながりのきっかけづくりから、将来的な結婚に結びつくようセミナーの開催を継続して取り組んでまいります。

2番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしく願い申し上げます。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

鶴本教育長。〔教育長 鶴本修一君登壇〕

○教育長（鶴本修一君）

田原洋子議員の2番目のご質問にお答えいたします。

1点目につきましては、令和2年度の助成件数は26件で、約187万円となっております。

2点目につきましては、不妊治療は専門性が高いことから、市の助成制度を主に掲載し、県不妊専門センターへのリンクを貼っております。

3点目につきましては、市では医師が不妊治療と認めた費用について、助成対象としております。

4点目につきましては、県不妊専門センターが相談窓口となりますが、こども課でも相談を受けております。

5点目につきましては、国が作成したリーフレットを企業に配付しております。また、市のホームページから国のホームページにリンク貼って、周知に努めております。

6点目につきましては、児童相談所が窓口となりますが、こども課でも相談を受けております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

2回目の質問をさせていただきます。

まず、1の結婚支援の（1）糸魚川市縁結びコーディネーターについて伺います。

実は、私も平成19年度の当初から、縁結びコーディネーターを続けていましたが、市議になったため退任いたしました。これは市議だから忙しくてできないというわけではなく、ちょっと様々な規定が引っかかってきます。

縁結びコーディネーターは、コーディネーター会議やコーディネーター同士がそれぞれ連絡を取り合い、独身者の情報交換をして、この方とこの方を会わせてみたらどうかと勧めています。

しかし、縁結びコーディネーターが持つ独身者の情報は少なく、さらに独身者の年齢や性格、育った環境、結婚観、相手に対する希望などを考慮すると、誰でもいいから会わせればいいというものではありません。

そこで、地域のことをよく知っている私たち市議と縁結びコーディネーターが、意見交換を行うのはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えいたします。

市議会議員と縁結びコーディネーターとの懇談会ですね。ぜひやっぱり議員の皆さんというのは、地域と色々な密着をされてるし、色々な幅広いつながりがあるというふうに思っております。そういった情報をしっかり頂ければ、よりコーディネーターが持つ、6人しか今いません。さらに多くの情報が集まってくることは期待できますので、そういった情報の共有というのは、ぜひさせていただきたいなというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

その際は、ぜひ私も参加して、地域の方から、おら息子まだ結婚しとらんという相談をたくさん受けているので、ぜひ参加したいと思います。

また、縁結びコーディネーターになるのは難しくても、結婚支援をしたいと考えている市民や事業者を対象に、結婚サポーター制度を新設するのはいかがですか。例えば小千谷市のめぐりあいサポートセンターのお世話志隊ときめきサポーターは、店舗や事業所に婚活イベントのポスターを貼っていただく、チラシを置いていただく、婚活イベントへ会場提供する、物品サービスの提供など、結婚を応援する機運を小千谷市全体で高めています。

糸魚川市でも過去の婚活イベントの際に、美容師さんがメイクをして、自信がないという女性に自信を持たせていただいたり、居酒屋さんが2次会の乾杯ドリンクをサービスするなど、お力を貸していただいたことがあります。糸魚川市全体で、婚活を応援しているということは、婚活が特別なことではなく、参加しやすい雰囲気をつくり上げるのに有効だと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

先ほどのお答えともちょっと重なる部分があります。やはり多くの皆さんとつながりを持つということは、大切であるというふうに思っております。

今、議員からご提案あった事業者、私どもの事業のほうでも、やっぱり事業者単位でも一生懸命考えてもらいたい。糸魚川市役所というのも一つの事業者と捉えることができますよね。そういったところもございますので、いろんなところの事業者様とのやっぱり関わり持って、少しでも関心を持っていただく。まずはそこからだというふうに思っておりますので、そういった観点でいろんな、やっぱり私も人と会うときには、そういったところの状況もお話する中で、少しでも機運を高めていく。そんな取組ができればいいかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

補足してお答えさせていただきます。

企業の経営者の皆様方と懇談の中でも、やはり従業員が独身でいるというのは、やっぱり会社の

営業にも大きく影響することもございますので、できればやはり従業員を結婚に持っていきたいという経営者はたくさんおられますので、私はそのサポーター制度というのは、非常に有効であると捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

前向きな答弁ありがとうございます。どんどん周り、企業、人を巻き込んで、婚活の機運を高めていきましょう。

次に、（2）と（5）の結婚報告については、正式に婚姻数の報告があった以外にも、これをきっかけに友人が増え、さらにそこから結婚されてる方が多いとお聞きしております。ほかの市町村に糸魚川の取組を紹介すると、糸魚川市がこれだけの婚姻数を把握してるということは、婚活イベント、紹介した後のアフターフォロー、その後の縁結びコーディネーターの相談がしっかりされてるからと高く評価されてるところです。

ただ、参加したくても勇気がない。実際どうなんだろうと二の足を踏んでる方が多いのも現状です。参加者を増やすための工夫は、されているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

確かに参加者という形の出やすい雰囲気というのは大事だと思います。ちょっと今、一、二年コロナの関係でできておりませんが、リバイバル25というのは、やっぱり同級生のつながりですね。やっぱりちょっとしたつながりで、何かのきっかけ、例えば同級生で集まろう。やっぱり何かのサークルで集まろう、何かのきっかけづくりというのが大事だと思います。出会いの場というのは、いろんな部分もあると思いますので、今いろいろな媒体もございます。SNSでもありますので、いろんな呼びかけの方法はありますけども、やっぱり人と人とのつながりでフェイス・ツー・フェイスでつながっていくというのが、広がりを持っていくというのが大事なのかなというふうに思いますので、今後も広報紙とか、そういった媒体もありますけども、人のつながり、そういったところでの広がりというのを求めていきたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

婚活に限ったことではないのですが、終了後にどう楽しかったのか、参加してよかった理由というのが、次に参加する人のための布石になります。

ただし、過去に私いろんな糸魚川市外の婚活イベントを支援にお邪魔したときに、参加者に対してカメラを向ける。例えばやたらとスタッフがうわさ話をするというのは、参加するという今度意

識を低下させます。もし、そういうインターネットとかを使う場合は、当たり前ですが、顔写真が分からないとか、あとカメラが向けられるときには、ちゃんと許可を取るなりして、告知をしてください。

次に、ハートマッチにいがた、(4)の上越市、妙高市との連携について伺います。

ハートマッチにいがたは、個人情報の保護のため、プロフィールを見て、気になった相手の顔写真を見たい場合、サポートセンターを予約する必要があります。1回45分の限られた中で、お会いしたい相手を3人まで選んで、お引き合わせの申込みをします。相手から、お引き合わせオーケーの返事が来ればいいのですが、残念ながら3人ともお引き合わせが成立しなかった場合、再度サポートセンターを予約して、申込みをしなくてはなりません。

また、サポートセンターが開設されないと、新規登録もできず、会員が増えません。会員が増えないと、マッチングする相手が見つかる確率も下がります。定休日があるとはいえ、毎週、月、水、木、土、日の5日間予約できる新潟サポートセンター、毎週月、木、日の週3回開設される長岡サポートセンター利用者と同じ会費を払っているのに、月に2回とチャンスがないのは不公平だと思いますが、月2回でよろしいのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

確かに新潟市、上越市、人口規模の部分はあると思います。上越もサポートセンターは、3回というふうなこともやっていましたが、最近では2回にちょっと後退しておりますね。私たちも、もっと開催を増やしていただくような要望活動はいたしますし、またやっぱり糸魚川でも臨時サポートセンターというのは、2年前からっております。開催回数が減った分は、逆に糸魚川でも臨時的にやっていただく、そういった取組もぜひ粘り強くやっていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

ぜひ回数が増えることを働きかけてください。

また、月2回であるのは、会員数が少ないからというのが新潟県の大きな理由ですが、お引き合わせをするマッチングサポーターのセミナーも、新潟会場、長岡会場はあるのに、上越会場はありません。これでは、上越エリアのハートマッチにいがたの知名度が上がりにくいです。

さらに糸魚川市に続いて、妙高市のみようこう出会いサポートセンター、今年の7月1日からは、上越商工会議所女性会が登録料の一部支援を始めました。上越エリアの3市が、全て登録料の助成を行っているのですから、新潟県に対して、上越サポートセンターの体制強化を強く申し入れるべきだと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

糸魚川市も初回の入会費用の2分の1助成ということで、行政、糸魚川市としても、それだけやっぱり真剣に取り組んでいるという姿勢だと思います。そういったところもしっかり県のほうにも伝えながら、セミナーの開催回数も県下県内で人口規模の上下にかかわらず、やっていただくような要望活動はさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

では、ここで市町村連携の身近な例があるので、ご紹介します。

内閣府の令和元年度、結婚応援に関する全国連携会議の事例発表は、新潟県、新発田市、胎内市、聖籠町、定住自立県婚活支援事業でした。

この連携のメリットは、自治体にとっては参加者対象の拡大、参加者にとっては参加する機会の拡大、少ない予算で各市町村の魅力に富んだイベントの内容が提案できる。開催地を持ち回りにすることで、1つのイベントの計画、実施、準備に時間と労力をかけられ、職員の負担を減らし、より満足度の高い内容にできること、また、浮いた予算で、ライフデザインセミナーの実施ができたことです。

また、新潟県主催、十日町市、小千谷市、津南町が、共同で開催した首都圏から女性参加者を募った一泊二日のツアーでは、実際に婚姻報告があり、結婚相手と巡り会わなくても、ツアーを通じて移住先の有力候補と考える女性が多くいました。上越市、妙高市と、今現在連携は取っていませんが、意見交換の場をまずつくっていただけないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

議員の提案、やっぱり糸魚川市単体でやってもなかなか難しいものはあると思いますし、やっぱり限られた範囲になってしまいます。やはり上越、妙高、糸魚川、やっぱり上越エリアを面的に捉えるという必要があると思います。かつて妙高市さんとは、この事業で連携したものをやろうということは、何年前にございました。ちょっと実現には至ってありませんでしたが、やはり上越3市のエリアの中で、面的に捉えて、こういった広域的な取組というのは必要でしょうし、また、マッチングに至らなくても、やはり移住・定住という観点でも市外から呼んでいただいて、うまくいけば糸魚川に定住してもらえば、もっといいわけがございますので、そういった二面性を持った中で、そういった連携については、上越3市とちょっと企画政策の担当がございますので、ちょっと話は出してみたいというように思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）



田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

婚活は、おらが村、おらが市だけでは、もうない時代です。ぜひ連携を組んで、幅広くたくさんの方が参加したり、婚活のチャンスがつかめるようにお願いしたいと思います。

では、次に、出会う前の施策についてお伺いします。

安定した雇用と賃金を上げる政策について、お伺いします。

現在、シルバー人材センターがたくさん請け負っている草刈りや除雪、雪下ろしの人員が足りなくて困っているとお聞きします。賃金を上げるだけではなくて、副業を推進するなりして、若者の収入を増やすのは、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

企業の皆様方におかれましては、当然賃金を高く払って、いろんな人から集まってきていただきたいという思いは同じであると思います。

ただ、副業云々という話になりますと、やっぱりその企業の考え方があると思いますので、そういう情報を提供する中で、企業によってご判断されるものであるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

結婚ができない理由が、賃金の低下や正規雇用で働けてないという理由が大きくあることから、今まで以上に企業に対しての働きかけをお願いします。

また、結婚しても働き続けられる職場環境、男女共同参画について、さらなる啓発活動をお願いしたいところであります。

次に、新生活を応援する施策についてお伺いします。

新潟県燕市には、市外から燕市の賃貸住宅へ移り住んだ新婚世帯に対し、2年間で最大36万円の補助金を交付しています。燕市は、三条市弥彦村、新潟市西蒲区の中心地とも近いため、賃貸住宅を探す際に、家賃補助があるなら燕市で探そうとなっているそうです。このような取組は、検討されたことがございますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

若年層の賃貸の部分の応援ですね。今、私のほうのところで言いますと、移住される方にはそういった制度は、応援する仕組みはございますが、今、新婚で、こちらで今おられる方がというところまでは至っておりませんが、また、国の支援策もしっかり情報を得る中で、どういったスタイルで応援できるのか、そういったところは情報をしっかり集めて、検討する必要があるというふうに

考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

家賃補助というと、同居した場合はどうなるのかとか、例えばリフォームした場合はどうなるのかとか、いろんな問題があると思いますが、先ほどの結婚サポーター制度にあるように協賛企業を募り、結婚する際にエステやネイルの特別プランが使えるとか、結婚記念日に食事をしたらドリンクサービスだとか、家を建てたり、リフォームする際や家具・家電の購入の際に特典があるというのはいかがでしょうか。

結婚に対する意識を向上させる結婚応援フェアでは、このときは32社が参加しています。結婚式場、ドレスショップ、エステ、ネイル、引菓子、ブーケ、挿花と、結婚式に直結している事業者だけではなく、インテリア、ギフト用品、アロマといった生活を豊かにするブースからも結婚組数が増えることに協力したいという意見が多くありました。結婚の際に糸魚川の事業者を使えば、経済効果も大きいと思います。各協力事業者を募り、特典などを一覧として、入籍した際にお配りするなどの施策はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

やはり糸魚川市全体で応援するというスキームでは、非常に有効かなというふうに思います。そこら辺も含めて、応援してくださる企業の皆さんですとか、事業者の皆さん、また他市の状況も含めて、そこら辺はちょっといろいろ研究をさせていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

今、この1年、婚活事業はどこの市町村も開催が中止され、ただ何もしないわけにはいかないという市町村は、こういう新婚生活に対する助成や新しい方針がないかというふうな準備期間に充てております。糸魚川市も、婚活ができない今だからこそ、できる取組を進めていただければと思います。

次に、結婚意向の高い20代、30代に対し、結婚・出産を含めたライフプランを考える機会についてお伺いします。

婚活参加者の話を聞いておりますと、出産・育児と親の介護が重なるダブルケアになることに気づいていない方が多くいらっしゃいます。いつか、そのうちと考えているうちに年齢が過ぎ、親の年齢も上がっていきます。いつまでに結婚したいのか、子供は何人欲しいのか、子供は大学まで行ってほしいのか、大学に行くには、幾ら用意しておけばいいのか。そのとき自分は何歳で、親は何

歳なのか、考える機会が必要だと思いましたが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

特に若い方のライフプランを考える意味では、非常に有効だと思います。逆に、この先結婚をして、子供の教育費ですとか、住宅ですとか、そういうことを考えますと、将来にわたって、一体幾らかかるのかなというところからの逆算になるのかなというふうに思います。そういったところの視点でのプランですとか、今までなかなかいろいろつながりをつくるとかいう方向へは向いてましたけども、そういったところのもうちょっと長い目線でのちょっと啓発するようなものとか、どのぐらいかかるのかというのも試算を入れながら、そういったパンフレットのなとこにまとめてみる。そんな施策は進めてまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

結婚生活に対して、お金がないと思ってる方は、糸魚川市の場合、やはり同居率がとても高いからです。1回自立を促し、結婚を生活していけるかどうか考えるために空いている市営住宅などを提供して、一度一人暮らしをさせてみるというのはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

確かに親と同居ではなくて1人で全て所帯を持ってやるというのは、大変だというふうに、私の自分の経験からいっても、やってみないと分からない部分があると思います。1つの議員からのご提言として、ちょっと受け止めさせていただいて、そういった視点も大切だということは周知はさせていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

婚活は、先ほどから言ってるとおり、出会いの場を提供すればいいという時代ではありません。糸魚川市で行った男性スキルアップセミナーでは、縁結びコーディネーターから出たアイデア、男性の家事力を上げようということで、スーパーで食材を買う、調理をする、食べる、茶碗を洗うということまでしました。その際に驚いたのが、ごみの分別をしたことがない。考えたことがないという男性が多いということです。例えば肉のトレーはリサイクル、カレーのルーの箱は、最近燃えるごみではなくリサイクル、カレーのルーもプラスチック包装でリサイクル、さすがにペットボトルはキャンプとラベルを外すというのは浸透していました。福神漬けの袋もリサイクルです。こ

れだけのごみが、カレーを作っただけでも皆さん全部燃えるごみとなっていました。これでは、糸魚川市、分別を勧めて、ごみの削減を進めたいと言ってるのが進みません。

皆さん今、聞きながら、しまった、燃えるごみにしてると思ってる方いらっしゃると思います。独身だけではなく、ごみの分別ができないのでは、結婚後、家事をするのにも影響が関わってきます。

つまり、このごみの分別となると、企画定住課だけではなく、環境生活課に関わってきます。ついでに言うと、一人暮らしで好きなものばかり食べたり、味付けの濃いもの、野菜が少ないなど、健康状態に影響が出てくると健康増進課、晩婚化が進んで不妊治療となるとこども課、それから結婚組数の低下から少子化が加速すると文化や祭りの継承者不足に直面するのは文化振興課で、農林水産業の担い手不足は農林水産課の問題となってきます。また、スポレックなどを通じて出会いの場となると生涯学習課、ツアーや観光を通じて婚活に取り組むのであれば商工観光課が得意分野ではないでしょうか。結婚支援は、企画定住課で完結するものではなく、ここは全ての課で協力して取り組む必要があると思いますが、市長のお考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

田原洋子議員のご指摘、全くそのとおりで思っております。そのようなことで、逆に、だからこそ企画的なところで受け持ってる部分がございます。私も今お聞きしておる中において、やはりいろんな今までの市内の事業であったりイベントであったり、そういうところの機会を生かして、婚活、また結婚、そして自分の人生のプランというものをやはり呼びかけていくことが大事ではないだろうかと思っております。やはりここに住む人という若者は、やはりそれなりの自分の人生プランを持つとる方々だと思ってるわけがございますので、そういった時々には我々行政であったり、また企業の皆様方であったり、地域の皆様方であったり、そういった結婚観というものも、その場ごとに出していくことが必要と捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

新潟県で、平成19年度と早い段階から行政が婚活支援を始めたのは、糸魚川市が珍しいということで、テレビ取材も入ったほどです。

また、その婚活事業をやめる市町村が多い中でも、糸魚川市は続けています。ぜひ糸魚川のチーム力を発揮していただければと思います。

では、次に2の不妊治療について、伺います。

この不妊治療については、私は昨年11月11日に開催された女性の意見を聴く会でも取り上げました。糸魚川市独自の不妊治療制度で、上限8万円の不妊治療の助成が、令和3年度から10万円に引き上げられたこと、糸魚川市のホームページに新潟県の相談センターのリンクが貼ら

れたこと、2人で学ぶ不妊症の基礎知識のリーフレットの配付が始まったことは、不妊治療に対して大きな前進だと思います。

しかし、まだ不妊を疑った場合、不妊の検査や治療を受けるには、まずどうしていいのかが分かりにくいと思います。不妊治療の場合、糸魚川市の助成だけではなく、新潟県の助成を合わせて受ける方が多いのではないのでしょうか。この2人で学ぶ不妊症の基礎知識には、できれば最初から設備やスタッフの充実した専門病院を探しましょうと、不妊治療専門の病院を勧めています。新潟県の特定治療支援事業実施医療機関の一覧を、まず糸魚川市のホームページに最初に出てくるように掲載してはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

議員おっしゃるとおり、やはり一義的な相談は、やはり病院へ行くケースが多いです。先ほど教育長答弁の中で、昨年の助成額を、補助額を申し上げましたが、全て県の制度と併用している方です。そういったところもあります。県の指定医療機関の一覧、以前からもご提案いただいております、ちょっと載せ方も、市のホームページにというものがありますので、載せ方少しちょっと難しかなという部分もありますが、少し検討してみたいなというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

併せてお聞きします。

新潟県の補助制度を使った場合、新潟県が指定する病院となっていますが、糸魚川市の場合、糸魚川総合病院から富山大学へ紹介状が出される場合、また、産婦人科の充実している富山県黒部市民病院を選ぶ方も多くいらっしゃいます。県を越えた場合、どのような助成が使えるようになるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

新潟県の制度に関しては、やはり新潟県が指定する病院ということになってくると思います。糸魚川市の制度については、医師が認めた不妊治療であれば対象としておりますので、医療機関云々は問うておりません。

ただ、議員おっしゃるとおり、やはり糸魚川の方は富山へ行くケースが多いです。とすると、やはりそこに新潟県民である糸魚川市民が行くというところで、県のほうにも要望していくというのが1つあるのかなというふうには受け止めております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

ぜひ新潟県に対して、具体的に使える病院ということで、働きかけをお願いします。

それでは、不妊治療の病院が見つかったら、次は不妊かどうかの検査が必要となってきます。先ほどから、糸魚川市は医師が不妊治療と認めたものの費用については助成の対象としているという説明があります。具体的には、どのような検査が補助対象になっておりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

申し訳ありません。具体的には、私、今持っておりませんが、医師が、例えば領収証にその検査の項目を書いていただいて、しっかりそれが不妊治療だと、不妊治療の一環だというふうに分かれれば、私ども柔軟に対応して、対象にさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

今ほどご説明があった内容が、どうしても糸魚川市のホームページでは分かりにくくなっております。そちらのほうをまず検査をするというのがスタートとなります。その辺を強化していただくようお願いします。

続いて、不妊の啓発についてお伺いします。

不妊についての知識、例えば男性や女性の原因、新潟県の特定医療支援事業は、妻の年齢が43歳以上で開始した治療は、助成対象外となること、この辺りは不妊治療を始める上では、とても重要な情報となってきます。

4月からは、不妊治療が国の保険制度の適用になることもありますし、ぜひ、おしらせばんが広く広報していただくことはできないのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

おっしゃるとおり、県の制度は43歳までと。糸魚川市は年齢制限がありません。来年、保険適用というようなことが言われております。それを捉えて、市民の、社会全体の課題として不妊治療ということを皆さんに、例えば企業の皆さんにも含めて、しっかり周知していきたいなというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

また、妊娠するには、健康状態、子宮がん、乳がんなどといった女性ならではの、がん検診などの受診も大切となってくると思います。健康増進課と連携は組んでいるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

こども課にも保健師がいて、皆様のご相談に乗っています。健康増進課にも、保健師が配置されております。職域として定期的に情報交換をしておりますので、それに限らず連携は取れてるといふふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

この不妊治療については、妊娠年齢などのことがリンクされてきます。これは大きな企画定住課の婚活支援をリンクしてることになってきますので、ぜひ企画定住課との連携もお願いします。

次に、（４）と（５）についてお伺いします。

子供が欲しいと望んでいる人の気持ちに寄り添った対応はできていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

それに限らず、こども課、市役所含めて、相談においでになった方には寄り添った対応をしているところであります。特にこども課におきましては、保健師が悩みに寄り添って、ご相談に乗っているという状況ですので、私どもとすれば寄り添った対応をさせていただいてると捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

今日は、結婚支援と不妊治療について取り上げました。

ただ、今回私が言いたいのは、結婚をする・しない、子供を望む・望まないは、個人それぞれの意思を尊重しなければならないということです。当たり前のように全員が結婚する時代は、かなり昔です。

また、結婚したら、当たり前のように子供はまだか、1人産んだら2人目はまだかという社会ではなく、また、結婚が必ずしも子供をつくるのが目的ではないこと、結婚、子供を望んでいてもかなわない方がいること、様々な価値観があり、違う選択肢を認める優しい糸魚川市であることを願います、私の一般質問を終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、田原洋子議員の質問が終わりました。